新津市水道局

財政事情

地方公営企業法第40条第1項の規定による新津市水道事業の業務の状況を説明する書類の作成に関する定めにより、昭和41年9月30日現在における当事業の財政事情を公表します。

昭和41年10月25日

新津市水道事業管理者　福住由次

昭和40年度決算状況

1 概況

当市上水道は、昭和7年に創設以来今年で34年を迎えました。その間に二回にわたる拡張工事と隣村合併（金津・小合・新関）による給配水管の布設延長を行ない、また昭和37年度から着工した第二期拡張工事によって、当市全部落に配水管布設が完了し、水道普及率は96%に達しました。今年度は健全財政を堅守したため管末の汚濁水の解消に改良工事を、住宅団地構成地域に配水管布設工事を少額であったが施工して積極的に住民の福祉向上に努めました。また有収水量の確保のため送配水管の漏水カ所の早期修理と、全給水戸数の計量制実施のための量水器の取り付けを行ないました。

（イ）収益について

収益の主なるものは水道料金で、給水戸数の自然増加と団地造成による住宅増加及び生活水準の向上等に伴なって水道使用量も増加し、料金収入は昨年に比し約340万円の増収がありました。

（ロ）費用について

費用の主なものは、人件費、電力料、減価償却費、起債利子等で、年々これらの費用も上昇し、全体費用の約76%近くをしめ、市民サービスに直結する事業が制約を受けるので、経常費は極力節約に努め、配水管の修理、量水器の取り替え、浄水施設の整備を行ないました。

（ハ）起債及び拡張工事について

今年度は起債許可額1,500万円と自己資本金とを合せて発電施設、配水管布設の工事を行ないました。

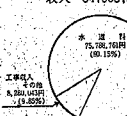
（ニ）災害復旧工事について

昭和40年6月の集中豪雨により配水池の土留流出の災害を受け、起債250万円、自己資本金3万5千円計253万5千円をもって工事を完了しました。

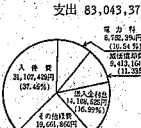
2 決算状況

（イ）収益的収入及び支出

収入 84,068,804円



支出 83,043,374円



収益的収入及び支出とは

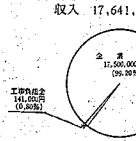
水道事業の営業状態をあらわした収入と支出であり、収入は水道料、工事収入で、支出は人件費、電力料、企業債利息その他等であります。この収入と支出の差額約1,025千円は資本的支出の企業債償還金、改良工事費の財源となるものであります。

資本的収入及び支出とは

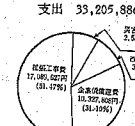
水道の財産の増減をあらわしたもので、政府から長期に金を借りて、それを財源に拡張工事や、ポンプその他の機械や、メーター等を購入し取り付け、また拡張のために以前から借りた起債の元金の返済等をあらわしてあります。収入額が支出額に不足する金額15,564,886円は当年度分損益勘定留保資金9,828,136円、当年度分利益剰余金処分額（収益的収入と支出との差額）1,025,430円、減価積立金535,723円及び一時借入金4,175,597円で補てんしました。

（ロ）資本的収入及び支出

収入 17,641,000円



支出 33,205,886円



水道基本財産

資産		負債・資本	
固定資産	294,074,398円	固定負債	1,966,544円
土地	3,115,002	企業債	1,966,544
建物	4,728,707	流動負債	23,938,791
構築物	225,640,612	未払金	2,839,375
機械及装置	56,849,173	一時借入金	21,000,000
工具器具備品	3,371,599	預り金	99,416
電話加入権	369,305	負債合計	25,905,335
流動資産	17,372,003		
現金	2,974,537	資本金	288,096,312
未収金	10,053,564	自己資本金	90,148,192
貯蔵品	4,215,914	借入資本金	197,948,120
前払費	20,148	剰余金	2,182,229
有価証券	107,840	資本剰余金	1,092,999
繰延勘定	4,737,475	利益剰余金	1,089,230
退職給与金	4,737,475	資本合計	290,278,541
資産合計	316,183,876	負債・資本合計	316,183,876

水1立方M（1トン）あたり原価

みなさんが使われている水道は、阿賀野川の表流水をポンプで揚げて減菌して送っていますが、その水道水は1立方m当り24円49銭の費用がかかっています。この計算方法は1年中に、水を送るための経費を、1年間に送った水のうち、各家庭、学校、会社、病院、工場そのほかの施設のメートル器を通った水の量（有収水量3,058,959立方m）で割って算出します。

この24円39銭には、起債による元金の返済金や、メートル器ポンプ機械等の購入や、拡張工事費等は含まれておりません。

昭和41年度予算状況

（イ）収益的収入及び支出

予算科目	金額	備考
収入		
水道料金	85,932,000円	
工事料金	1,868,000	
その他	301,000	手数料等
計	88,101,000	
支出		
原水及浄水費	27,150,000円	原水の取入より送水までの維持管理作業に要する費用
配水及給水費	10,984,000	送配水管設備、量水器の維持管理作業に要する費用
受託給水工事費	1,509,000	受託給水工事の新設、変更、修繕に要する費用
総務費	16,445,000	料金調定、徴収事務、庶務、会計事務に要する費用
減価償却費	10,051,000	固定資産の減価償却費
企業債利息	14,321,000	
その他	1,131,000	
計	81,591,000	

（ロ）資本的収入及び支出

予算科目	金額	備考
収入		
企業債	20,000,000円	
出資金	124,000	備品購入のための出資金
計	20,124,000	
支出		
拡張工事費	23,560,000円	
浄水施設費	1,617,000	浄水場施設の改良工事
配水管布設費	2,778,000	配水管の布設替、量水器取付費
業務用備品	362,000	業務用備品、その他
企業債償還費	9,399,000	
計	37,716,000	

工費3億2千万円
断水解消の拡張工事

水道料金改正10月から

水道料金の改正等の改正等をはかるものですが、その後三年を経過した現在、人件費、電力料、薬品費、材料費等、すべて高騰しているため水道会計は極めて苦しい状態となりました。

現在の水道料は、昭和三十八年十月に改正されたものですが、その後三年を経過した現在、人件費、電力料、薬品費、材料費等、すべて高騰しているため水道会計は極めて苦しい状態となりました。

一方、昭和三十七年から三十九年まで水不足解消のため一億五千万円を投資し、浄水場、配水管等の拡張工事を行ないましたが、年々増加する戸数と市民各位の使用水量がいちじるしく増加してきたため、今年の夏には当市の計画配水量を越す状態が続き、遠方地区、高台地区では断水の状態が発生、平常通り水の出ない戸数も二千五百戸に及びドラム缶による給水で急場をしのいだ有様です。

更に来年はこのような区域が広がおそれもあり、また、市街地においても減水の事態発生が予想されます。

このような状態を一日も早く解消するため総工費三億二千万円、給水人口七万人、取水設備の八万人分、送水管の大規模な拡張工事を行なう予定であります。

拡張工事費はすべて起債で賄なわれますが、それに伴なう利子その他の諸経費も大幅に増額するためやむを得ず別記のとおり改正することになりました。

市民各位のご理解とご協力をお願いいたします。

定額制

種別	基準	基本料金 九月分まで	基本料金 十月分から	超過料金 九月分まで	超過料金 十月分から
専用栓	人員五人まで	円	円	円	円
共用栓	一栓につき	円	円	円	円
浴槽栓	一槽につき	円	円	円	円
支共用栓	一頭につき	円	円	円	円
牛馬		円	円	円	円

計量制

類別	使用別	基本料金 九月分まで	基本料金 十月分から	超過料金 九月分まで	超過料金 十月分から
第一類 家庭用		円	円	円	円
二 営業用（小口）	商店	円	円	円	円
三 〃（大口）	旅館	円	円	円	円
四 公衆浴場用		円	円	円	円
五 学校用		円	円	円	円
六 官公庁用		円	円	円	円
七 工場用		円	円	円	円
臨時用		円	円	円	円
共用栓		円	円	円	円

量水器使用料

口径	九月分まで	十月分から
13ミリ	円	円
20ミリ	円	円
25ミリ	円	円
30ミリ	円	円
40ミリ	円	円
50ミリ	円	円
75ミリ	円	円
100ミリ	円	円
150ミリ	円	円
200ミリ	円	円